

第9回電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会議事録（概要）

平成27年5月29日（金）13:30～15:45

伊勢市観光文化会館 4階大会議室

○あいさつ

藤本副市長

大変お忙しい中ご出席をいただきましてありがとうございます。平成24年の8月に当協議会を設立しましてから低炭素社会の構築に取り組んで参りました、朴会長には協議会をリードして頂き、また、市のほうでは昨年度の第二期の環境基本計画を策定しました。その折の審議会の会長としてご尽力をいただきました、ありがとうございます。モデル事業につきましては今年が最終年度になりますが、私どもの取り組みを県内に広めて頂きトップランナーとしてこれからみなさんの知恵、お力を頂きながら取り組んで参りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

また、本日は環境省の中部地方環境事務所の池田所長にお越しいただきまして自転車を活用したスマートバイク事業について、自転車を活用したまちづくりについて本日勉強させていただきまして、環境にやさしいまちづくりに取り組みたいと思いますので引き続きよろしくお願い致します。

朴会長

みなさんこんにちは、これから私たちはどういう方向に向かっていけばいいのか一緒に考え貴重な時間を有効に活用しながら進めていきたいなと思います。

この事業は非常にありがたいことに三重県のリーダーシップで伊勢市の鈴木市長、藤本副市長はじめ副会長をお願いしている伊勢商工会議所の菊川副会頭、それからお分りのように地域の産官学、学といえば三重大学、名古屋大学、皇学館大学含めてみなさまのおかげで「おかげさまAction!」というネーミングにふさわしく式年遷宮で1000万人の方、日本の人口の10人に1人が伊勢に来ているということで、みなさんが何に乗ってくるかと考えてみると鉄道や車、これからは自転車、三重に、乗り物は全部伊勢に集めたらどうかという意味も込めて電気自動車などをはじめ、自動車メーカーのトヨタ、日産、ホンダ、三菱その他ベアリングであります。NTNだとかいろんな方々がなぜここに集まるのか考えてみるとやはり伊勢が持っている素晴らしい発信力により、私たちの協議会は非常にすごいことをしたなと思っています。たとえば東京都は一人乗りの車、2020年のオリンピックを見据えたものかもしれないが実証事業をやったという話が出てきますし、日産、三菱いろいろな電気自動車、水素自動車もありますがそういう実証事業をすでに伊勢でやったのをお忘れなく。今日はその部分に対して皆さんがそれぞれの分科会などで話された部分、実績として出てきている部分、三重交通のピカチュウのバスがこの地域に一日に4回か5回まわっていると。今日もう一つ考えてみたいのがそろそろモデル事業、役割を果たして今年度が最終年度であるところ、中部地方環境事務所の池田所長のスマートバイク

ということもありまして同じ乗り物でも、自転車がどういうふうに素晴らしいか、まちづくり、経済の活性化やいろんな部分につながっていくのか話題提供させて頂いて具体的にこれからどうしていくのか考える時間になればいいなと思っております。忌憚のない、前向きなご意見をお願いします。

○議題

朴会長

ではさっそく議事進行させていただきたいと思います。左のその 1 なのですが今年度の取り組みとスケジュールについて事務局説明よろしくお願い致します。

事務局

資料 2 説明（県）

朴会長

ありがとうございました、このスケジュールで自転車を使った取り組みが一つ加わったように思いますがこの説明について何か質問ありますか。

よろしいでしょうか、それでは、資料 3 の説明をお願いしたいのですか。

事務局

資料 3 説明（県）

朴会長

本日は中部地方環境事務所の池田所長にご講演いただくため、時間的に整理していただき、資料 4.5.6 の説明を簡潔によろしいですか。

事務局

資料 4 説明（伊勢市）

伊勢市観光協会（西村専務）

説明

朴会長

ありがとうございました。

事務局

資料 5 説明（伊勢市）

伊勢商工会議所

資料 6 説明

事務局

資料 7 説明（伊勢市）

資料 8 説明（伊勢市）

朴会長

ご意見を頂きたいのですがいかがでしょうか？

みなさんが考えている間に私、中村社長一つ教えてもらいたいのですが、EV車購入の補助金は国交省だとか経産省だとかいろいろありますが。

中村社長

はい、うちが購入したのは日産の e-NV200 でその時は仕事の関係で荷物を載せるため、バンタイプを購入させていただきました。購入費用は約 400 万、補助金はその半分で 190 万弱です。うちは民間なので半分ですがそれと同時に市の方も購入しまして、市は三分の二ですね。使ったのはGPPという補助金なのですが、この補助金があるというのは皆さん中々理解してもらっていないのですが実際環境省の補助金なのですが環境省が調べにきまして、GPPの補助金もらっているのは名だたる企業ばかりです。その時に聞いたのが調査をする事業なら 100 パーセント補助金ありますよということです。

事務局

100 パーセントかどうか記憶が定かじゃないですが、基本的には地球温暖化対策の実行計画の目標達成のための補助金ということでグリーンプランパートナーシップ事業費というのはございます。

朴会長

調査とはどのようなものか。

中村社長

電気を中電から買って木質バイオマスで電気を作りますよとそれが合うか合わないかを調査する為のコンサルタント費用とかは導入支援のための費用だったら 100 パーセント。

事務局

全国で、EVで採択されたのは二件だけです、伊勢のケースは最初のエントリーは落ち

てしましまして、仕切りなおして二回目のエントリーで頂けました。

事務局

グリーンプランパートナーシップ事業の補助事業が、自治体としては一回だけと聞いています。二回目はちょっと難しいのですがいろいろ支援策を相談しながら進めていきたいと思えます。

朴会長

平成 26 年度の会計報告及び、平成 27 年度の予算について引き続き事務局説明よろしくお願い致します。

事務局

資料 9 説明（伊勢市）

朴会長

ありがとうございました、私のほうから補足をさせていただきます、この事業は県と市によるモデル事業なのですが、誰でもできるようなものではないので、二つのところで協力を得て進められているものであります、まず一つ資料 9 の 26 年度会計報告の歳入のところの上から二番目、伊勢市の皆さんの協力によるもので平成 19 年 9 月に伊勢市は全地域でチェーンストアでレジ袋を配ることはやめましょうとして、必要な人には有料化したと、そこから原価を差し引いてほしい 150 万から 200 万近くになりますそこでコムスを 4 台購入しました。

もう一点、三重県環境保全事業団がこの事業に協力したいということで良ければ車買ってもいいし、充電施設に充当してもいいですし、なんらかの形で有効な使い道を考えて下さい、このように伊勢市民のみんなの力、三重県の市町を問わず頑張るところには協力しますよという、ありがたい支援です。私、伊勢市レジ袋有料化検討会で私会長を務めておりまして話をもちあげて自転車は自動車より安いのでスマートバイク事業で、自転車を観光協会が、一緒に力を合わせて伊勢駅前や宇治山田駅前、観光協会前だとかいろんなところに置いて使いたい方に使わせてあげると、今は資金がゼロではない、簡単には動かさないお金ではありますが事務局として言えないことなので、私の方から補足ということで説明させていただきました。そういった財源をみなさんの努力で有効活用ができるのではないかとということで補足させていただきました。

資料 9 の平成 26 年度の会計報告、平成 27 年度の予算についてどうでしょうか、

（拍手により了承）

朴会長

スマートバイク事業について

話を聞いて皆さんで意見を言っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

環境省中部地方環境事務所 池田所長

スマートバイク事業については、朴会長に期待をしていただいておりますが、本日私の説明を聞いていただいて活用できそうであればそうしてほしいと思います。

資料 10 に行きます。

環境省の事務所は、全国 7 か所に分かれています。中部地方環境事務所は名古屋にあります。資料のとおり中部 7 県を管轄しています。

なお、伊勢志摩国立公園の管理等を行っています。

自転車に行きますと、スマートバイクイニシアティブは、今年 3 月に始めたばかりです。

自転車は人の力で走りますから、移動の際に二酸化炭素をださない、汚染された空気を出さない、エコで身近な乗り物です。さらに健康にもよい。

温暖化対策という観点ですが、これを進めていくことで持続可能な社会を構築していきたいと考えています。

皆様の手元のチラシには、「自転車がつくる未来」というテーマを記しています。

詳しい中身は後程、HP を見ていただきたいと思います。自転車が使いやすいまちづくりということも考えていきたい。また、そういったまちづくりを進めるなかで、日常生活にもっと自転車を取り入れましょうということが考えにあります。

自動車に過度に依存している部分を、少しでも自転車に置き換えることができないか、だいたい 5 km 以内であると、自転車のほうが、自動車よりも早く目的地に到着するというデータもあります。5 km 以内であれば、自転車を使えば、エコで効率もよいと考えています。

また、自転車を通じたまちづくりをしたり、自転車関連のビジネスも生まれてくるだろうということで、雇用の創出もなされます。

さきほど、災害時の EV 活用ということがありましたが、自転車そのものをレジリエンス（しなやかな回復力）のため活用します。東日本大震災のあと、しなやかな回復力を持った社会を構築することが重要になっています。たとえば、阪神・淡路大震災のときに、高速道路が崩壊して、まったく道が使えなくなったときに、初めに移動手段として使われたのが、自転車であったということがあります。自転車に乗りやすいまちづくりを行うと、同時に、災害時にもそれほど日常生活に困らない移動手段が確保できるまち、レジリエンスということにつながります。

また、警察庁が自転車の規制を強化するということがあるが、根本的なマナーというところを社会でつけることが必要であると。

公共道路空間で、最も優先しなければならないのが歩行者（車いす、ベビーカー等を含む）、その次に自転車、そして自動車という基本的な考えをもっと社会の中で深化していけば、安全快適な道になるのではないかと。ひいては、これが自転車をより使いやすいまちづくり

につながっていくのではないか。

最後に、どのような方法でそれらを行うか。協働プロジェクト2.0という言い方をしています。そのためだけの予算というのは特にはないが、ホームページで、皆さんの企画形成の場を提供しています。

先ほどGPPという話があったが、環境省で使えるツールで使えるものがあれば、紹介していきたい。

例えば、自転車を使った、各種宅配サービスや、自治体用観光用レンタサイクルの拡大といったことが考えられます。

来年、伊勢志摩国立公園が指定70周年を迎えます。昭和21年に指定された国立公園です。

おととい鳥羽市で伊勢志摩国立公園の実行委員会の立ち上げがありました。伊勢市長も参加されました。伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町それぞれの首長を顧問として入っていただいています。70周年でいろんなイベントを地元で考えていただいているが、たとえばその中で、自転車を活用したツアーというようなものも考えてまいりたい。

それに関連して、鉄道に自転車を載せたりとかということを重点的に考えてまいりたいと思っています。

朴会長

ありがとうございます。鈴木市長も自転車を用いた交通政策を考えていると伺いましたので差し支えなければ、自転車に対する考え方を教えていただければ。

伊勢市副市長

観光客のみなさんにとっては車で伊勢に来られた場合渋滞が生じますので、大きなストレスになっているというのが一つ、それからご承知のように生活習慣病対策というのが今大きな課題になっております、これは厚労省になってきますけど、見直しに入っているような状態でありまして、こういった健康づくりを行って頂きたいということがありましてまた、協議会の低炭素、3つの視点から市長も、自転車によるまちづくりを行っていきたい。中々難しい点もありまして、道路事情により自動車との共存が難しいという大きな課題があるわけですが皆さんの知恵をいただいて取り組んでいきたい。

朴会長

ありがとうございます。どんな意見でもかまいませんので頂きたいと思います、いかがでしょうか？

豊田通商（浅井）

三つほど教えていただきたいのですが、一つ今回中部地方環境事務所ということでご紹介

頂いたのですがこの取り組みというのは全国に展開されていくのか、他の事務所でも同じような取組をされていくのか、もう一つコンセプト 3 でご説明頂いたのですが、事業の内容については、補助金がおりの可能性が出てくる。

最後は今、伊勢市がおっしゃったように都会で自転車が増えて安全の面で大変であるが、国交省を巻き込みながら道の確保等まで踏み込んでいけるのか、教えていただければ幸いです

池田所長

ありがとうございます、環境省全体としては自転車を含んで移動をエコにとスマートムーブという全国的な運動をしている。このスマートバイクは、中部地方環境事務所が自転車に着目して取り組んでおりまして、私どもの事務所が主体として行っております、ホームページはどなたでも見られますので管轄外のところから申し出があったりする時にそれを拒否するものではないというスタンスでやっております。それから補助金のお話しもございましたが特にこの事業のための予算取りをしてスタートしたわけではありませんけれども環境省のなかでエネルギー特会を使っているいろんな事業ございますのでその中で現在使えるなもの、私どものこういった事業を始めたということをご本省へ私どものほうも働きをかけて自転車を使った事業にもっと補助金のメニューを作るとか働きかけを同時に行っていきたいと考えております。安全性の問題も非常に重要でございます、環境省のツールの中で道路政策そのものを行う訳ではありませんので自転車を使ったまちづくりを低炭素の観点から計画づくりをするようなものに対するモデル事業への助成金が考えられますが、道路そのものの整備は、各自治体の努力であつたりするので、そこは連携していくと、現在のところそこまで至っておりませんが事業進めていくにあたって、連携は視野には入れていくべきと考えています。

朴委員長

ありがとうございます。西村さん観光協会としていかがですか。

伊勢市観光協会（西村）

協会といたしましては 30 台くらいレンタサイクルをしています。貸出場所は伊勢市駅、宇治山田駅、外宮前の三か所で今行っております、稼働はだいたい年間で 4700 超えました、26 年度で 3000 台強くらいとなっていますので、足りている日と足りていない日があつて天気の良い日、悪い日があつて貸出量がかなり変わります、常にあるかどうかでいきますと週末の天気の良い日は全部出払ってしまいます、そういう所に対応するのでもう少し余裕をもって台数がほしいかなと思っております。

あと、いろんな観点からいろんな自転車があつてもいいんじゃないかと思っておりますので、子供用であつたり大人用であつたり場合によっては三輪車といったこけない自転車そういう

のもという声はあります。去年、国交省と交通対策協議会の協力を得て、貸出ポイントとして議論したのですが一か月ほど実験させていただいてイオン伊勢店まで車で来て頂いてそこから自転車に乗り換えて内宮まで行っていただくと交通の流入を防ぐという意味もありまして、手応え的には非常に面白いものがあった。今年も国交省とお話しさせていただいて自転車の普及を活用するにもそういった拠点を一つ決めて実験していきたいということで今洗い出しに入っているのです。環境と交通対策は近い所にあると思いますので、国交省と環境省の間に入れていただけて道路の整備から自転車が気持ちよく運行できる整備まで協議会で話させていただければなと考えています。

朴会長

ありがとうございます、伊勢で縦割り行政が横に繋がったということですね。作りませんか、副市長の力で。

伊勢観光協会（西村）

今、やっています。こっちが接着剤になっている。観光協会は半官半民で幅がある。お金と権力で進めていかないといけませんので、それを駆使していただければ、私ども観光協会青年部もやる気ができるので、ご協力いただければ。

池田所長

参考までにちょっといいですか。お金の話しではないのですが、伊勢志摩国立公園実行委員会の立ち上げの話をしたが、志摩市も「志摩半島サイクルマップ」を志摩スポーツコミッションが、自転車のルートやビューポイントを志摩市観光協会も入って作っているが、伊勢市もつくっているかもしれませんが、周辺の自治体で自転車のユーザーにとってのマップ作りが一つ有効かなと思います。来年が70周年ですので、伊勢志摩は全国から人を集める魅力的な場所であるのは間違いありませんので、エコな手段を使って伊勢志摩に全国から来るというのを考えてみると面白いし周辺のアクセスルートにのって津市の美杉出身の、ヨシダミノルさんという「ウッドジョブ」という映画、林業振興の映画にも関わっている方で奈良方面から美杉町の中の旧伊勢街道ルートを通りながら伊勢に入ってくるとか周辺の広域を含めて考えると幅が広がって面白いかなと考えております。

朴会長

ありがとうございます、林次長に教えていただきたいのですが鈴木知事もよく自転車乗っていますよね。

林次長

ごめんなさい、自転車によく乗っているというのは知りませんでしたけど、知事も健康の

為に最近体重を減らしたみたいで健康のためにも乗ってきているのかなという話もあり
ますけども、健康だけじゃなくてそれが低炭素社会につながる意識にもっていただ
けると非常にいいのかなと。

朴会長

ありがとうございました、そういうイベントとして今年 11 月に 70 周年プレイベントをや
りたいとちらほら聞こえているのですが。三重でエコツアーリズムといたら必ず離島で
ある。離島もいいけれども、陸のエコツアーリズムについて、わかりやすく説明いただ
ければ。

11 月のプレイベントに向けて、伊勢のノウハウをどう生かしていくのか。

副市長

伊勢市のモデル事業が最終年度であるが、これをどのように発展していくのか。県はモデ
ル事業を県内に広げていくということなので、県と伊勢市がどのように協力していくのか
ということも合わせてプレイベントということができればありがたいと思うし、スマート
バイクといった先進的な取組をできればいいと思う。

副市長

今年は伊勢市合併 10 周年記念である。11 月であるが、その前後に行われるさまざまな
イベントに冠を付けて実施していく。

坂本環境部長

合併記念日の 11 月 1 日の前後、環境フェアは、合併 10 周年記念イベントという冠を付け
てやる。他にも、さまざまなイベントがあるので、そういったところで協議会の取組を発
信していきたい。

林次長

伊勢市には、非常にポテンシャルがあると感じる。今、伊勢志摩にサミットがやってくる
かもしれないという話がある。そういう時に、伊勢市でこんな地球温暖化防止の取組をや
っているというのはアピールポイントとなる。それをいかに外に発信するか。マスコミ等
も活用して、日本全国に発信していく機会となる可能性がある。

朴会長

11 月のプレイベントや合併 10 周年の行事を前に、6 月～7 月に意見を出して事務局が
整理して、8 月下旬～9 月上旬に話し合いの場を持ってはどうか提案するがよろしいで
しょうか。

菊川副会長

本日前半はEVの活用、後半は自転車を使ったまちづくりを議論していただいたと思っている。ところで最近、かつては不健康とされていたものが、健康のツールになっているものがあると感じている。

例えば、ゲームセンターは、今ではお年寄りのコミュニティスペースのようになっている。また、朝活とって、イギリス、アメリカから始まって、今、日本に来ているものであるが、ヤフージャパンでは朝5時に起きて、会議室で仕事前に皆でダンスをし、食事をするというイベントを行っている。

私は伊勢で生まれ育ったが、伊勢の人は、かつては1人1台自転車を持っていたと思う。私自身も学校に通うために自転車を使用していた。しかし、伊勢の人はいつの間にか自転車に乗らなくなったと思う。

自転車活用のためには、何かイベントを行っていくこと、EV等も活用して楽しいイベントを開催することがよいのではないかと考えている。

○報告（現在の取組状況等）

資料1 1

NTN袴田主査が報告

資料1 2

三重交通早川伊勢営業所長が報告

○その他

太田主幹から、伊勢市の取組の全体的展開について報告

（その他、FM三重の事業について説明）

（閉会）15:45